

教科	選択C	科目	日本語学	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材		担当者	多胡東明光			
概要・目標	身近な日本語に興味を持ち、日本語の成り立ちや変化を学びながら意味変化・音声変化・語形変化の観点から、用法や変化の要因を考察できる力を養う。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	活動・評価			
	一学期	5 5	日本語の歴史 日本語の系統	日本語の成り立ちを学び、時代ごとの特徴を理解する。 日本語の系統について理解する。 興味を持った言葉の成り立ちを日本語大辞典を使い、いつの時代の言葉か調べる。 調べた言葉をロイロノートにまとめ、発表する。  (1学期中間考査)			
		4 4	日本語の音声と音韻 日本語の文字と表記	日本語の音声と音韻の特徴と変化を理解する。 日本語の文字と表記の特徴と変化を理解する。 音声の観点で時代や地域によって異なる言葉を調べ、なぜ違いが生じたのか考察する。 語形の観点で時代や地域によって異なる言葉を調べ、なぜ違いが生じたのか考察する。 調べた言葉をロイロノートにまとめ、発表する。  (1学期期末考査)			
	二学期	5 5	日本語の語彙 日本語の文法	日本語の語彙の特徴と変化を理解する。 日本語の文法と変化を理解する。 類義語や似たような意味を持つ助詞の用例をコーパスやツイッターを使い調べ、違いを考察する。 調べた言葉をロイロノートにまとめ、発表する。  (2学期中間考査)			
		10	現代生活の日本語	現代生活で日本語がどのように使われているのか理解する。 漫画や商品名などで特徴的に使われている日本語を調べ、どのような効果を狙って使われているか考察 調べた言葉をロイロノートにまとめ、発表する。  (2学期期末考査)			
三学期	3学期は授業を行いません。						
履修上の心得と注意							
学習到達目標達成のために、各自が積極的かつ意欲的に授業に参加する必要があります。ノート・iPadは必ず準備すること。また、課題等の提出物は評価に影響するので必ず提出すること。							
評価観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	話す・聞く能力	知識・理解		
評価観点趣旨	日本語の変化や成り立ちに興味を持ち、自ら意欲的に日本語について追求している。	日本語の成り立ちや変化に関する資料を調べ読み取れる。	データや考えをまとめ、相手や目的に応じ筋道立てて適切に資料をつくることを身につける。	自分の考えを明確に話すと同時に相手の話を聞き的確に捉えることを習得する。	日本語の成り立ちや変化に関する知識を身につける。		
評価方法	・授業への出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出	・定期考査 ・授業に取り組む姿勢 ・ワークシート ・ノート、ロイロノート	・定期考査 ・ワークシート ・ノート、ロイロノート	・授業に取り組む姿勢 ・ワークシート ・ノート、ロイロノート	・定期考査 ・課題等の提出 ・ワークシート ・ノート、ロイロノート		

教科	選択C	科目	現代文演習	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『5訂版 正しく読み・解くための 力をつける現代文 ステップ2』			担当者	岩崎 真吾		
概要・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代文の「読み方」「解き方」を、様々な文章で実践し、定着させる。</li> <li>確かな「読解力」「記述力」「語彙力」を段階的に身に付ける。</li> </ul>						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	第1回「多様性は人間だけのものか」 第2回「未来形の読書術」 第3回「裸の王様」 第4回『『きざし』の文化』 第5回「庭の南瓜」 第6回「鉄道員」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」を意識して本文を読めているか。</li> <li>「段落要約」を確認しながらキーワードを確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を踏まえ、読解問題を解けているか。</li> <li>構成・ことばの問題を解くことができているか。</li> </ul>			
			第7回「哲学の使い方」 第8回「ドラえもんの大切なメッセージ」 第9回「三十一文字のバレット」 第10回「見わたせば・・・」 第11回「政と源」 第12回「現象学という思考」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」を意識して本文を読めているか。</li> <li>「段落要約」を確認しながらキーワードを確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を踏まえ、読解問題を解けているか。</li> <li>構成・ことばの問題を解くことができているか。</li> </ul>			
	二学期	26	第13回「心の遠近法」 第14回「あかぎれ」 第15回「自然と人間」 第16回「学ぶとはどういうことか」 第17回「自分の時間へ」 第18回「生命科学」 第19回「ロゴスと言葉」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」を意識して本文を読めているか。</li> <li>「段落要約」を確認しながらキーワードを確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を踏まえ、読解問題を解けているか。</li> <li>構成・ことばの問題を解くことができているか。</li> </ul>			
第20回「ひなた」 第21回「身体と空間」 第22回「価値の多様化と画一化」 第23回「人を喜ばせるプロフェッショナル」 第24回「美の本体」 第25回「秀吉と利休」			<ul style="list-style-type: none"> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」を意識して本文を読めているか。</li> <li>「段落要約」を確認しながらキーワードを確認できているか。</li> <li>「読解テーマ」と「学習ポイント」を踏まえ、読解問題を解けているか。</li> <li>構成・ことばの問題を解くことができているか。</li> </ul>				
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の心得と注意							
学習到達目標を達成し、個々の能力を向上させるには、意欲的に授業に参加する必要があります。授業を受ける際は、必ず問題集を用意し、板書や説明を書き留めるようにして下さい。(各学期ごとに検査を行う。また、課題等も評価に影響するため、必ず提出して下さい。)							
評価観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	話す・聞く能力	知識・理解		
評価の観点の趣旨	文章の叙述を自主的に味わいながら読み、国語で伝え合う力を進んで高めようとする。	文章を的確に読み取り、主題や要旨を理解し、自身の考えを深めている。	相手や目的に応じて筋道立てて適切に文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	目的や場に応じて自分の考えを明確に話し、相手の意見を的確に聞き取ることができる。	構成・文法・音声・語句・表記・漢字を理解し文章読解に役立つ知識を身につける。		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への出席状況</li> <li>授業に取り組む姿勢</li> <li>課題等の提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>授業に取り組む姿勢</li> <li>ワークシート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>論作文作成及び提出</li> <li>ワークシート</li> <li>問題集</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業に取り組む姿勢</li> <li>ワークシート</li> <li>問題集</li> <li>発言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期考査</li> <li>課題等の提出</li> <li>ワークシート</li> <li>問題集</li> </ul>		

教科	選択C	科目	近未来を学ぶ	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材			担当者	森田 大介		
概要・ねらい	科学・技術が発達し、我々の生きる社会が大きく変化している。そして、AIの普及や宇宙工学の発達などにより過去にはSFの世界であった事が現実化されつつある。そのような社会をこれからどのように生きていくのかを映像などを通してながら考察していく。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	20	近未来を学ぶ① AIの発達を考える  近未来を学ぶ② 火星移住計画を考える	●AIの普及及びその影響について考え、表現する事が出来ているか。  ●火星移住計画の概要とその考え方、地球人としての私たちという観点を持って、表現する事が出来ているか。  《1学期中間考査》 《1学期期末考査》			
	二学期	26	近未来を学ぶ③ STAR WARSの世界を考える	●1学期で学んだ事を踏まえて、将来的に生まれる可能性がある共存をテーマとしてSTARWARSの世界を理解し、表現する事が出来るか。  《2学期中間考査》 《2学期期末考査》			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
●授業は板書したりプリント等を利用するので、必ずノートを用意してください。 ●レポートや課題の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。 ※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解			
評価の観点	これからの世界に対する、大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとする。	各項目から課題を見出し、文化の多様性と現代世界の特質を多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する。	AIや火星移住計画等についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して現代の事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現する。	AIや火星移住計画等についての基本的な事柄を、その普及及び課題と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢	●定期テスト ●課題等の提出			

教科	選択C	科目	漫画で学ぶ歴史公民	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『詳説 世界史B』/『詳説 日本史B』山川出版社 『新詳 地理B』 帝国書院 『現代社会』 東京書籍			担当者	岡田 新平		
概要・ねらい	本校で学習した地歴公民科の内容について、一般知識として習得すべき事柄を学ぶ。そして、日本の特徴ともいえる「漫画」の文化や作品に触れ、教科の理解や知識を深めていく。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	10	1) 現代漫画について ・流行している漫画とは ・日本漫画の世界に対する影響力  2) 漫画の誕生から発展まで ・「鳥獣戯画」の誕生 ・江戸時代における印刷本の発展に伴う漫画作品 ・手塚治虫氏による漫画革命	●漫画の原点について深く学び、世界にどのような影響力を与えたかを説明できるか。  ●現在の漫画事情について把握し、漫画の利点をいかして学習の内容を理解しているか。 ●各回のレポートをまとめ上げ、課題等の提出を守ることができているか。  《1学期中間考査》			
		10	3) 歴史的分野の学習 ・元寇の出来事とその対応 ・多方面から学ぶ織田信長の存在 ・明治～大正時代の人々の暮らし ・始皇帝誕生までの過程 ・ローマ世界における文化の特徴	●歴史的分野において、流行している漫画を題材に各項目について学習し、内容を理解しているか。  ●各回のレポートをまとめ上げ、課題等の提出を守ることができているか。  《1学期期末考査》			
	二学期	13	4) レポート ・夏休みの宿題によるプレゼンテーション  5) 公民的分野の学習 ・死刑制度の是非 ・障害者に対する相互理解 ・働くことの意味～夢を実現する～ ・日本の抱える生活保護の不正受給問題	●興味のある学習漫画について調べ、他者に理解しやすいように説明することができるか。  ●公民分野において、流行している漫画を題材に各項目について学習し、内容を理解しているか。 ●各回のレポートをまとめ上げ、課題等の提出を守ることができているか。  《2学期中間考査》			
		13	5) 公民的分野の学習 ・日本の抱える生活保護の不正受給問題  6) 地理的分野の学習 ・インドの歴史と経済発展の要因  7) 総まとめ	●公民・地理的分野において、流行している漫画を題材に各項目について学習し、内容を理解しているか。 ●総まとめとして、今までに学習した内容を復習するとともに、現代において問題となっている時事について把握し、理解しているか。 ●各回のレポートをまとめ上げ、課題等の提出を守ることができているか。  《2学期期末考査》			
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>●板書をしっかり写すこと</li> <li>●配布されたプリントやデータを保管すること</li> <li>●課題、宿題などにしっかり取り組むこと</li> <li>●欠席、遅刻をしないこと</li> </ul> <p>※評価は定期試験と上記事項などを含め判断する</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用	知識・理解			
評価の観点の趣旨	授業での説明や映像などを通じて、積極的に学ぶ姿勢が見れたか。	様々な観点から歴史的分野と公民分野を取り上げ、多角的で柔軟な見方を養えたか。	客観的かつ公正な資料(漫画)に基づいて、事実の正確に理解し、多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育成できたか。	漫画を活用し、上記の内容について十分に理解できたか。			
評価方法	●授業への出席状況 ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢 ●課題等の提出	●定期テスト ●授業への取り組み姿勢	●定期テスト ●課題等の提出			

教科	選択C	科目	入試数学	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	『攻略！共通テスト数学Ⅰ+A,Ⅱ+B』東京書籍			担当者	高橋 勇氣		
概要・ねらい	数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学Bの内容を改めて復習し、数学の基礎学力の定着を図る。そして、大学入学共通テストに対応できる力を養うために、重要な知識・解法を応用した問題を取り扱う。演習問題を通して数学的な見方や考え方の良さを学び、論理的に考える力を身につけて活用できるようにする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	5	数学Ⅰ+A 2章 2次関数 2次関数の最大・最小 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラフと2次関数を結びつけて考えることができる。また、区間や軸が変化する問題にも対応することができる。</li> <li>三角比の値を様々な問題で活用できる。各定理を図形の問題に応用し、解くことができる。</li> </ul> 《第1学期中間考査》			
		5	3章 図形と計量 正弦定理と余弦定理 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>各値の意味を理解し、データを読み取ることができる。相関係数を求め、効果的にデータを扱うことができる。</li> </ul>			
		5	5章 データの分析 散布図と相関関係 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>順列や組合せの基本的な計算を行い、確率を求めることができる。様々な事象にも応用することができる。</li> </ul> 《第1学期期末考査》			
5		6章 場合の数と確率 順列・組合せと確率 等					
二学期	6	数学Ⅱ+B 3章 三角関数 三角関数のグラフ・加法定理 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>三角関数を含む方程式や不等式を求めることができる。図形への応用も含め、発展的な問題にも対応できる。</li> </ul>				
	5	4章 指数関数・対数関数 指数関数の最大・最小 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>対数不等式や指数関数の最大・最小を理解し、常用対数を用いた問題等に論理的に考えることができる。</li> </ul> 《第2学期中間考査》				
	6	5章 微分と積分 放物線で囲まれた図形の面積 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>微分積分の概念を理解し、グラフと結びつけて考えることができる。面積等の応用問題にも対応できる。</li> </ul>				
	5	6章 数列 漸化式と数学的帰納法 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な数列を扱い、各公式と結びつけて考えることができ、数学的帰納法の理解へとつなげている。</li> </ul>				
三学期	3学期は授業を行わない						
履修上の注意							
授業では毎回教科書・ノート・iPadを準備し、板書は必ずとること。定期試験とは別にICT活用も含めた小テストを行い、入試に向けて継続した学習を行う。小テスト及びノートは評価の対象となるので、期限を守って必ず提出すること。必要に応じてオンライン学習を行うこともある。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	数学的な活動を通して各問題における考え方や思考に興味・関心を持ち、各事象を論理的に考察しようとするのができたか。	事象を数学的にとらえることができ、論理的に考えとともに数学的な見方や考え方を思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えることができているか。	様々な問題について考察し、それを推論し得た結果から解答を導き出すことを通じて、表現する方法を身につけているか。	様々な問題を解決する活動の中で、その基本には論理的な考え方や道筋があることを理解し、実践的な問題への応用も含めた知識を身につけているか。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 小テスト・ノートチェック	授業への取り組む姿勢 ノートチェック 定期試験	授業中の解答 小テスト・課題提出 定期試験	授業中の解答 小テスト・課題提出 定期試験			

教科	選択C	科目	SPI	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者	
教科書	『史上最強 SPI&テストセンター超実践問題集』ナツメ社			担当者	村山健介			
概要・ねらい	就職試験に出題されるSPI(主に非言語分野)を通して、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用できるようにする。							
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準				
	1学期	5	推論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論理的に考え、それを表現することができる。</li> <li>・樹形図を利用した数え方を身に付け、また順列及び組合せを理解し、値を求めることができるか。</li> </ul>				
		4	順列、組み合わせ	《第1学期中間考査》				
	2学期	1	1	組み合わせ・確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確率における基礎的な用語・知識を学び、確率の意味を理解し、求めることができるか。</li> </ul>			
4		3	割合と比・損益算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・割合、損益算を理解し、求めることができるか。</li> </ul>				
3		2	料金割引	<ul style="list-style-type: none"> <li>・料金割引を実生活と結びつけて計算することができるか。</li> </ul>				
2		1		《第1学期期末考査》				
2		2	仕事算・代金精算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事算、代金生産、速度算を理解し、求めることができる。</li> </ul>				
3学期	3学期	2	速度算・集合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合に関する基本的な知識や記号を学ぶ。</li> </ul>				
		3	表の解釈・特殊算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通部分や補集合といった概念を理解し、活用することができるか。</li> </ul>				
		2	特殊算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表を解釈し、表現することができる。</li> </ul>				
		1	1		《第2学期中間考査》			
		3	3	情報の読み取り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を読み取り、表現することができる。</li> </ul>			
		3	3	物の流れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件から瞬時に領域を判断することができる。</li> </ul>			
		3	3	グラフの領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・与えられた時間の中で問題を解き切ることができる。</li> </ul>			
3	3	条件と領域						
3	3	構造的把握力検査						
3	1	1		《第2学期期末考査》				
3学期は授業を行いません								
履修上の注意								
問題集から数問ピックアップして解説する。その後演習に取り組む。								
就職活動の際のSPI試験では、時間が限られた中で問題を解かなければならないので、時間を意識した授業を実施する。								
課題の提出は基本的にiPadを利用する。								
評価の観点の趣旨と評価方法								
各観点	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解				
評価の観点	数学的活動を通して、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに思考の過程を振り返り多面的・発展的に考える。	事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、的確に問題を解決する。	数学における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身につけている。				
評価方法	授業への出席状況 課題等の提出状況 授業への取り組む姿勢	課題等の提出 授業への取り組む姿勢 定期考査	授業への取り組む姿勢 定期考査	課題等の提出 定期考査				

教科	選択C	科目	生物・化学	単位数	2	学年・コース	3年進学・体育/選択者
教科書	担当で作成プリント			担当者	田中恭平、花岡千都		
概要・ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>生物の分野を通じて、SDGsについて考え、環境問題や社会問題について理解する。</li> <li>お互いの意見を発表し、共有することで、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を育む。</li> </ul>						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	10	レポート作成について 解剖学について 豚の眼球の解剖 鶏の頭の解剖 豚の脳の解剖	教科書でしか見ることのできないものを実際に触れ、解剖することにより生物学への興味関心を深めるとともに、構造や働きについても理解する。また、習得した知識をもとにSDGsとの関連を深め、自身の考えを表現・伝達できたか。			
		10	文化祭に向けて研究活動	文化祭に向けて、グループにて研究活動をおこなう。SDGsを念頭に、環境問題など地球上における諸問題についてレポートを作成し、プレゼンテーションを実施する。その際、積極的に研究へ向き合っているか、また得た知識を身に付けているか。			
	二学期	10	文化祭に向けて研究活動 元素検定 人工イクラ アミノ酸検出	文化祭に向けて、グループにて研究活動をおこなう。SDGsを念頭に、環境問題など地球上における諸問題についてレポートを作成し、プレゼンテーションを実施する。その際、積極的に研究へ向き合っているか、また得た知識を身に付けているか。 元素検定・人工イクラ作成・アミノ酸検出を通じて、生化学的な知見を広げることができたか。			
10		生命誕生について マイクロプラスチックについて 環境問題についてレポート・プレゼンテーション	生命誕生とダイナミックに移り変わる地球の様子を学び、未来の地球について考えることができたか。 レポートやプレゼンテーションを積極的に取り組むことができたか。 レポートやプレゼンテーションの完成度。				
三学期	3学期は授業を行いません						
履修上の注意	授業は板書したり、プリント等を利用するので、必ず筆記具を用意してください。また、課題等の提出に関しては評価にも影響しますので、必ず提出するようにしてください。						
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	観察・実験・表現	知識・理解			
評価の観点	・自然界で起こっている現象について、意欲的に学ぼうとしているか。	・事物や事象に対して、考察し、科学的な評価をできるか。 ・過去の事象から未来を予測し、自らの意見を持てるか。	・実習や観察を通じて、レポートに科学的知見を踏まえた自身の意見ができるか。	・自然界の事象・現象を理解し、探究心をもって取り組むことができるか。			
評価方法	授業への出席状況 授業への取り組む姿勢 課題等の提出状況	授業への取り組む姿勢 プレゼンテーション 課題等の提出	授業への取り組む姿勢 プレゼンテーション	プレゼンテーション テスト			

教科	選択C	科目	古生物学	単位数	2	学年・コース	3年 進学/選択者
教科書	自主教材			担当者	大迫 崇史		
概要・ねらい	生物進化の歴史を理解する 古生物学の研究手法について理解を深める 化石の産状と成因について理解する						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価規準			
	一学期	20	第1回 ガイダンス 科学の方法と階層性 第2回 古生物学と化石 第3回 古生物学の研究法 生物学的アプローチ① 第4回 古生物学の研究法 生物学的アプローチ② 第5回 古生物学の研究法 地質学的アプローチ① 第6回 古生物学の研究法 地質学的アプローチ② 第7回 化石の産状と成因① 第8回 化石の産状と成因② 第9回 ミクロの化石① 第10回 ミクロの化石②	古生物学の研究法を理解できているか。 化石の産状と成因について理解できているか。 授業ごとの課題に取り組み提出できているか。			
	二学期	26	第11回 先カンブリア時代① 第12回 先カンブリア時代② 第13回 古生代① 無脊椎動物の進化 第14回 古生代② 脊椎動物の誕生・進化 第15回 中生代① 恐竜の出現 第16回 中生代② 爬虫類の発展 第17回 中生代③ カメ類の進化 第18回 中生代④ 恐竜の絶滅 第19回 新生代① 鳥類の発展 第20回 新生代② 哺乳類の進化・発展 第21回 新生代③ 日本列島の誕生と環境の変化 第22回 新生代④ 人類への進化 第23回 学年末レポート作成	生物進化の歴史を理解できているか。 地球の歴史の時間スケールを理解できているか。 授業ごとの課題に取り組み提出できているか。			
三学期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	表現・処理	知識・理解			
評価の観点	・生物進化の歴史に関心を持ち、意欲的に探究し、総合的にとらえるとともに科学的態度を身につけているか。	・それぞれの分野において、事実や仕組みなどを考え、その特徴や法則、働き、利用などを導き出せるか。	・自らの考えをもとにして適切に表現できるか。	・基本的な概念や原理、法則を理解し、知識、技能を身につけているか。			
評価方法	・授業への出席状況 ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出状況	・定期レポート ・授業に取り組む姿勢 ・課題等の提出	・定期レポート ・課題、レポートの提出	・定期レポート			



教科	選択C	科目	実践剣道	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
テキスト	「実践剣道」大修館・「基本技稽古法DVD」剣道時代			担当者	本田知也		
概要・ねらい	武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、自己の責任を果たそうとするなどや、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。その中で、昇段に向けて取り組む姿勢を養う						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	基本動作 (礼法・自然体・竹刀の握り方・構え 体捌き・素振り) 剣道具の着装 切り返し・打ち込み 応用(仕掛け技・応じ技) 互格稽古 木刀による剣道基本技稽古法	<ul style="list-style-type: none"> <li>常に相手を尊重した態度で協力し合って練習している。</li> <li>基本動作を正しく身に付けようとしている。</li> <li>刃筋正しく打突し、気剣体一致の技を打つことができる。</li> <li>目標時間内に剣道具を着装できる。</li> <li>体捌き、足捌きから気剣体の一致の技を実践できる。</li> <li>剣道の基本動作を応用し、気剣体一致の技を打つことができる。</li> <li>互格稽古の中で相手の攻撃に対し反射的に技を出すことができる。</li> <li>礼儀作法を正しく理解し、実践しようとしている。</li> </ul> 《実技試験》			
	二学期	26	切り返し・打ち込み 応用(仕掛け技・応じ技) 試合稽古 日本剣道形(五本目まで行う)	<ul style="list-style-type: none"> <li>体捌き、足捌きから気剣体の一致の技を実践できる。</li> <li>剣道の基本動作を応用し、気剣体一致の技を打つことができる。</li> <li>試合稽古の中で相手の攻撃に対し瞬間的に判断し、反射的に技を出すことができる。</li> <li>立ち合い、礼法、姿勢態度、間合い、機会、気力、呼吸法、刀法を理解し、形を打つことができる。</li> </ul> 《実技試験》			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意		<ul style="list-style-type: none"> <li>日本手ぬぐい</li> <li>木刀、竹刀、剣道具の点検</li> <li>十分な準備体操</li> </ul>					
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	問題解決の能力	技能・表現	知識・理解			
評価観点趣旨	剣道の学習の仕方を理解し、常に相手を尊重した態度で礼儀作法を正しく実践できる。	自分の身を危険から回避することができ、怪我の防止に役立つことができる。	剣道の練習を通して、主に瞬発力、筋力、全身持久力、調整力を向上させることができる。	相手の仕掛けてくる技に対し瞬間的に判断し、反射的に技を出すことができる。			
評価方法	授業への参加意欲の観察	授業への参加意欲の観察	授業への参加意欲の観察 実技試験	授業への参加意欲の観察			

教科	選択C	科目	コミュニティーダンス	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
テキスト	『ステップアップ高校スポーツ2018』 大修館			担当者	米澤 倫子		
概要・ねらい	ダンスのもっている力を「創造力・コミュニケーション力・表現力」を社会の中のあらゆる局面において活かせるよう身につける。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレッチ、ウォームアップ</li> <li>動きの発展 即興から動きを生み出す。 ミラーゲームからの動きの発展 インプロゲームからの動きの発展</li> <li>作品づくり</li> <li>発表、鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの動きや表現の良さを見つけて伝え合い、また、アドバイスし合い、それを生かして改善することができたか。</li> <li>作品を発表し合い、鑑賞し、そして他のグループ作品を体験することによって互いのよさを認め合い、相互に評価できたか。</li> <li>テーマから思い浮かぶ動きをみんなで出し合うことができたか。</li> <li>発想豊かにイメージを広げながら作品を作ることができたか。</li> </ul> 《実技試験》			
	二学期	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>ストレッチ、ウォームアップ</li> <li>動きの発展 即興から動きを生み出す。 ミラーゲームからの動きの発展 インプロゲームからの動きの発展</li> <li>作品づくり</li> <li>発表、鑑賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの動きや表現の良さを見つけて伝え合い、また、アドバイスし合い、それを生かして改善することができたか。</li> <li>作品を発表し合い、鑑賞し、そして他のグループ作品を体験することによって互いのよさを認め合い、相互に評価できたか。</li> </ul> 《実技試験》			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>遅刻、欠席をしない。</li> <li>身なりを整え、長い髪は結び、爪は切ってくること。</li> </ul>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解			
評価の観点の趣旨	授業に積極的に参加しているか。	自分の課題を達成させるために学習活動へ取り組んでいるか。	いまある技能を伸ばせるように課題をもって参加しているか。	各種運動の特性を理解しているか。			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席状況</li> <li>学習姿勢</li> <li>活動状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習姿勢</li> <li>課題発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習姿勢</li> <li>課題発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題レポート提出</li> </ul>			

教科	選択C	科目	スポーツ科学演習	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	基礎から学ぶスポーツ概論 大修館			担当者	西山一貴		
概要・ねらい	体育系大学の一般選抜(実技内容)に向けて、試験内容にある種目の対策を行う。 様々なスポーツの科学的な理論を理解し、自身の専門とする競技力を高めることや、指導者として競技力を高める方法を学ぶ。 測定した数値、動作や能力に対し、科学的根拠に即した評価を行う。そして理論的に改善を行い、能力を高める方法を導き出し、身につける。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	20	目標設定をする  自分の能力を測定し評価する ・メディシンボール投げ ・3コーンドリル ・垂直跳び ・加速走 ・20mシャトルラン  目標達成に向けた組み立てと実践	・自分の目標としている基準内容を理解し、自分の目標を立てて今後の取り組み内容を明確にできている。  ・理論をもとに自分の能力を高めるために、必要な取り組むべき内容を選択できている。 ・理論をもとに自分の能力を高めるために、必要な取り組むべき取り組みをしている。 ・理論をもとに自分の能力を高めるために、必要な取り組むべき評価できている。			
	二学期	26	自分の能力を測定し評価する 他者の測定を評価する ・メディシンボール投げ ・3コーンドリル ・垂直跳び ・加速走 ・20mシャトルラン  測定してきた自分の評価と取り組みをまとめ発表す	・自分の現状を明確に評価し、取り組みの設定ができている。 ・他者の実施動作を観察し、自身の課題への改善方法を導き出す。 ・複数回の実施の中でPDCAサイクルをもとに計画的に見直しを持った計画を立てられている。  ・評価をもとに自分の取り組みを理論的にまとめ発表する。			
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意		教科書とノートを準備する。 授業終了後の提出物は必ず提出する。					
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断		知識・理解			
評価の観点の趣	科学的な根拠に着目して、能力を高める方法に関心を持って取り組もうとする。	評価をもとに自分の改善点・高める方法を見つけている。		各種の正しい運動の仕方、安全についての知識を身につけている。自己の能力・他者の能力を評価する知識を身につけている。			
評価方法	・出席状況 ・学習姿勢 ・活動状況	・学習姿勢 ・レポート、ノート提出 ・プレゼンテーション		・学習姿勢 ・レポート、ノート提出 ・プレゼンテーション			

教科	選択C	科目	音楽演習	単位数	1	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材・音楽の友社等の譜面をプリント化 オリジナルのアレンジ・バイエルピアノ教本			担当者	黒田早彩		
概要・ねらい	譜面を見ながら演奏したり歌唱したりする力を身につけ、色々な楽器に触れ、表現と鑑賞・製作(創作)等の活動を通じ、より深く音楽を愛好する心を養う。 保育技術検定において、より高い級の取得を目標とする。						
年間 授業 計画	学期	配 当 時 間	学習内容	評価基準			
	一 学 期	18	ピアノ演習 バイエルNO30番～NO47番の練習 ・独自のピアノエチュードを使用 ・ポータートーンを使用した個人練習を実施	譜面を正確に読む事が出来るか。 しっかりと練習に取り組む事が出来たか。			
		18	幼児教育に必要な歌唱の練習 ・リズム打ちを含めた歌唱の練習	正確にリズムを打つ事が出来るか。 音程や表情に注意しながら歌う事が出来るか。			
		8	絵本より表現を学ぶ 絵本に音をつけてみる。 ・鍵盤楽器の演奏	絵本の内容にそった音をつけることができたか 音色等を工夫することができたか。			
二 学 期	22	ピアノ演習 バイエルNO48番～NO104番の練習 ・独自のピアノエチュードを使用 ・ポータートーンを使用した個人練習を実施	譜面を正確に読む事が出来るか。 しっかりと練習に取り組む事が出来たか。 ※ 個人指導を行なう				
	22	幼児教育に必要な歌唱の練習 ・リズム打ちを含めた歌唱の練習 絵本より表現を学ぶ	正確にリズムを打つ事が出来るか。 音程や表情に注意しながら歌う事が出来るか。 音楽の創作や工夫が出来るか。				
	22	器楽演習 ・リコーダーとハンドベルの演奏 ・鍵盤楽器の演奏	譜面を読みながら、正確に演奏する事が出来るか。 ※ 級別実技試験に則った検定を行なう。				
三 学 期		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 授業は教科書とプリントを使用して行う。自己の取り組みを自身で評価し、次の実技項目に生かす。</li> <li>● 器楽の授業においては、積極的な取り組みが必要である。創作に於いては、自主性が必要である。</li> </ul>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度		芸術的な感受や表現の工夫		創造的な表現の技能		表現の能力
評価の観点の趣旨	色々な楽器の演奏方法を通じ、音楽をより楽しむ力を高め、メロディーを自ら作り、音として表現する事の喜びを知る。楽器や歌唱を通じ、音楽に対しより深い興味を積極的な表現をすることができたか		譜面を読み取り、自ら音として表現する姿勢を養う。 楽器や歌唱を通じ、音楽に対しより深い興味を抱くように、事前の調べを工夫し努力する。		発声・音色・音程に留意し、楽曲を正確に表現すると共に、強弱やテンポなどの個人的な表現を工夫し発表する。		多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを他の人物に伝える努力をする。
評価方法	授業の出欠状況 取り組み姿勢 提出物等		授業の出欠状況 取り組み姿勢 提出物等 発表		授業の出欠状況 取り組み姿勢 発表		取り組み姿勢 学習プリントの提出

教科	選択C	科目	総合美術	単位数	1	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材			担当者	岡田 敬子		
概要・ねらい	様々な素材を用い幼児にとってふさわしい教材の勉強をし、幼児教育に役立てる。 幼児の発達状況に伴い、美術を通して豊かな感性を養う事を目的とする						
年間 授業 計画	学期	配 当 時 間	学 習 内 容	評 価 基 準			
	一 学 期	3	モダンテクニック スパッタリング、デカルコマニー、コラージュ等	絵画における様々な技法を学ぶ。			
		4	手のデッサン	鉛筆による手のデッサンを考える。 形は正確にとれているか、陰影をつけられているか。			
	二 学 期	4	木彫(バードカービング) こまどり	鳥の形、模様や色合いを正確に表現する。 木を彫り進め、絵の具により色合いや模様を塗り進めていく。 様々な方向からのデッサンをまとめる。			
5		ステンシル技法でエコバッグを制作する	ステンシル技法を理解し、オリジナルエコバックを制作する。				
三 学 期	8	木版画(ハガキ)	来年度の年賀状のアイデアスケッチを 文字・イラストによりまとめる。 装飾やデザインにテーマをもって描かせる。				
	3学期は授業を行いません。						
履修上の注意							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・後片付け、掃除をきちんと行う。</li> <li>・課題に応じて必要な持ち物など、忘れ物がないよう徹底する。</li> <li>・実技作品の提出期限を厳守する。</li> </ul>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞理解			
評価の観点の趣旨	いかに幼児のための美術を考えるか。	豊かに表現し大きな視点で物を捉える力がある。	創造的な表現をする為の様々な工夫をしている。 用具の使い方の理解度	優れた作品への理解と知識を養う。			
評価方法	積極的な姿勢を持つ事 作品点数を重視する	実技作品の完成度 授業への積極的参加	1、実技作品の完成度 2、授業への取り組む姿勢	1、実技作品の完成度 2、授業への取り組む態度			

教科	選択C	科目	書道選択	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	自主教材			担当者	北田 朋子		
概要・ねらい	<p>これまで学習したことを更に発展させ、創造的で個性的な造形の豊かさと線質の豊かさを高め、書の文化や伝統を愛好する心を育てる。</p> <p>書の多方面な展開を楽しむ。</p>						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	6 4 2 10	6 臨書(半切作品制作) 4 漢字仮名交じりの表現 2 一字創作 10 自由制作(全紙作品制作)	古典の筆法をまねて、半切作品を制作することができたか。 漢字と仮名を調和させ、表現できたか。 決められた紙面に漢字を工夫して配置できたか。 今まで学んだことを活かし、オリジナルな作品を制作することができたか。 よき位置に名前を書き、印を押すことができたか。 お互いの作品を鑑賞することができたか。			
	二学期	20	さまざまな書表現 うちわ等への文字入れ マーブルリング 白抜き文字 アクリル絵の具による表現	様々な技法での手順を理解し、オリジナルな作品を制作できたか。			
	三学期		3学期は授業を行いません				
履修上の注意							
<p>共有物は大切に使用し、次の時間の生徒に不愉快さを与えないことを学ばせる。</p> <p>学習内容により危険物を使用することもあるので、沈着な授業展開が必要となる。</p> <p>毎時間作品の提出を求める。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	芸術的な感受		創造的な表現と技術		鑑賞と理解の能力	
評価の観点の趣旨	主体的に書と関わる姿勢が必要。自ら感性を高め美との関りに喜びを求めらる。	感受性豊かに、作品に反映させた作品を作る。		教材を理解し独自の表現を試みる。		歴史の展開を知り、その時代背景と共に鑑賞する。素直に表現する。	
評価方法	授業に取り組む姿勢。作品の成績と提出状況	作品の完成度。文言の選択。		作品の完成度。独自性。用具用材への取り組み方		作品の完成度。作品にいかいに生かされたか。	

教科	選択C	科目	英語検定	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	Step by Step 4 Skills 1,2 (三省堂)			担当者	小林 晃		
概要・ねらい	<p>英検受験対策をし、各自のスコアを伸ばせる授業を行う。</p> <p>授業内では4技能の平均的に取り組む。グループでの学びあいの活動を行う。</p> <p>学年末受験の実用技能英語検定にて準2級以上の合格を目標とする。</p>						
年間授業計画	学期	配当時間	単元	学習内容			
	一学期	2	1 英検について、学習計画	・ 目標の設定、現状の把握			
		3	2 オリエンテーション1	・ 準2級未受験者へのガイダンス、3級の復習			
3		Unit1	・ 完了形、関係詞、分詞、不定詞				
3		4 文法チェック④、⑤	・ 前置詞、接続詞、助動詞、比較、代名詞				
3		5 練習問題 筆記1	・ 文法事項の確認、イディオムの確認①				
3		6 練習問題 筆記2	・ 文法事項の確認、イディオムの確認②				
3		7 練習問題 筆記3①	・ 空所補充のポイント				
二学期	1	8 英検C B Tについて	・ コンピュータを用いたテストングについて				
	3	9 リスニング第1部①	・ 聞き取りのポイント、音の連結を学ぶ				
	3	10 リスニング第2部①	・ 選択肢から質問を予想する				
	3	11 リスニング第3部①	・ 解答となるポイントの聞き取りとマークシートについて				
	3	12 練習問題 筆記3②	・ 読解のポイント、単語確認				
	3	13 練習問題 筆記4 A①	・ メール文の読解①				
	3	14 練習問題 筆記4 A②	・ メール文の読解②				
三学期	4	15 練習問題 筆記4 B①	・ 読解問題、内容一致の解答				
	4	16 練習問題 筆記4 B②	・ 読解問題、速読、スキミングについて				
		3学期は授業を行いません。					
履修上の注意							
<p>1 真面目に授業に参加すること。</p> <p>2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。積極的な態度で授業に参加すること</p> <p>3 宿題を課すこともあるので、忘れずに取り組むこと。</p>							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	英語的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解			
評価の観点の趣旨	出席、取り組み姿勢	日常生活から英語での表現を意識できているか。	自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。	英語表現を含む、英語文化の理解ができているか。			
評価方法	出席、発言 授業への取り組む姿勢	授業への取り組み姿勢 スピーキングテスト	スピーキングテスト ライティング課題	ライティング課題 授業内発表			

教科	選択C	科目	Active English	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	オリジナルテキスト			担当者	ステイシー・内田浩一		
概要・ねらい	スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの各分野における英語力の伸長を促す。						
年間授業計画	学期	配当時間	単元	学習内容			
	一学期	4	1 基本の自己紹介の仕方	・自分の情報を相手に伝える。また相手の情報を得る。			
		4	2 基本的な質問の仕方と答え方	・欲しい情報を相手に尋ねて、また相手からの質問に適切に答えを返す。			
		6	3 要約	・重要な箇所を的確にまとめる。			
6		4 旅行英会話	・旅先での、ホテル予約など必要な作業などを学習する。				
		(20)		第1学期中間スピーキングテスト 第1学期期末スピーキングテスト ライティング課題			
二学期	6	5 旅行英会話	・旅先での、航空券予約や伝言の聞き方の学習				
	10	6 質疑応答	・いろいろな場面に応じて、必要な受け答えを練習 ( 家族の説明、医者での会話など )				
	10	7 ライティングの訓練	・ニュースの理解 ・1学期に習ったことをもとに、自分を表現するより長い文章を書いてみる。				
		(26)		第2学期中間スピーキングテスト 第2学期期末スピーキングテスト ライティング課題			
三学期			3学期は授業を行いません				
履修上の注意							
1 真面目に授業に参加すること。 2 辞書、ノート、筆記用具を必ず持参すること。プリントをそのつど配布するので無くさないようにファイルしておくこと。 3 ワークシートを配布するので無くさないようファイルしておくこと。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	英語的な見方や考え方		表現・処理	知識・理解		
評価の観点の趣旨	出席、発言 グループ内での積極的な活動	日本語との表現の違いを理解し、適切な判断ができるか。		自らの表現したい事を適切に英語で表現できるか。	英語表現を含む、英語文化の理解ができているか。		
評価方法	出席、 発言 授業への取り組み姿勢	授業への取り組み姿勢 スピーキングテスト		スピーキングテスト ライティング課題	ライティング課題 授業内発表		



教科	選択C	科目	食物	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	使用教科書なし			担当者	江波戸純子・古川なおみ		
概要・ねらい	2年次に学んだ食物の知識・技術を基本にし、食物検定受験をすることで、さらに詳しく調理についての知識・技術を習得する。また、よく目にする加工食品や日本の伝統料理について、調査・研究した上で、実際に調理をする。食品についての知識を習得するために、テーマを決めた調理実習をする。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容	評価基準			
	一学期	2	オリエンテーション	今後の流れを把握し、理解できたか。			
		2	専門学校講師によるデザート実習	今後の進路決定において、専門家から、学ぶことが出来たか。			
		2	手量り・目測・いろいろな切り方実習	調理の基礎実習として、物の重さと分量の目安を理解できたか。また、材料の切り方の技術と知識を理解できたか。			
		1	食物検定4級実技内容練習	食物検定4級の内容を含め、調理の基礎が理解できたか。			
		1	食物検定4級内容VTR	VTR「調理の基礎知識」			
		2	「味噌」調理実習	日本の伝統的加工食品の作り方を理解できたか。			
		2	「だんご」調理実習	「米」を原材料にした加工食品について理解できたか。			
		2	テーマ「米」の調理実習	また、普段食べているものの作り方が理解できたか。米を中心として献立を考え、実習することができたか。<レポート「米」>			
		2	食物検定4級受験	調理・栄養の基礎を理解できているか。			
	2	食物検定3級内容調理実習	食品の特性を理解し、調理の手順を考え、おいしく、見栄えよい調理ができたか。				
	2	食物検定3級受験	1つの料理を作る材料・手順を理解できたか。				
	二学期	2	献立の立て方	いろいろな調理法、栄養のバランスを理解しながら献立を立てる手順が理解できたか。			
		2	「きつねうどん」調理実習	「小麦粉」の調理性、油揚げ、だしの取り方を理解できたか。			
		2	「パン・ジャム」調理実習	「小麦粉」と「砂糖」について理解できたか。			
2		「マカロニグラタン」調理実習	「小麦粉」の調理性のドウとルーを理解できたか。				
2		テーマ「小麦粉」の調理実習	「小麦粉」の特性を生かした調理ができたか。				
2		「ハンバーグ」調理実習	「肉」の特性について理解できたか。				
2		テーマ「肉」の調理実習	「肉」の特性を生かした調理ができたか。<レポート「小麦粉」「肉」>				
2		テーマ別献立作成・調理計画	バランスの良い献立か。調理手順に無駄は無いのか。				
2		文化祭準備					
2		「お弁当」調理実習	「お弁当」に適切な献立・調理法をし、彩りよくお弁当箱につめることができたか。<レポート「お弁当」>				
三学期	2	「日本の行事食」調理実習計画	伝統的な行事食を理解し、自分の生活に取り入れる工夫ができたか。				
	2	「おせち料理」調理実習	「おせち料理」の調理手順を理解できたか。				
	2	「X'masパーティー」調理実習	「パーティー料理」の献立・調理手順を理解できたか。				
3学期は授業を行いません							
履修上の注意							
実習重視の授業です。それぞれの学期ごとに提出するレポート・作品などがあるので、期日を守りきちんと提出をして下さい。またそれぞれの内容を理解した上で実践していきますので、積極的な姿勢で授業に臨んでください。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	技能・表現	知識・理解	思考・判断			
評価の観点の趣旨	食に対して関心を持ち、食材や調理に対する知識・技術を習得する姿勢と実習に対する積極的態度が見られる。	食材・調理法の知識・技術を習得し、味・栄養・見た目・調理法のバランスを考えた献立を立て、実際に調理をする能力が身についている。	食材・調理法の知識・技術が身についている。	基礎を学び、その場にあった献立を考え、様々な食材に対応した調理法を選ぶなど、食に対しての問題に適切な対応をすることが出来る。			
評価方法	授業の出席状況 授業に取り組む姿勢 レポートの提出	献立レポートの提出 実習に取り組む姿勢 料理の味・見た目のバランス	食物検定受験 レポートの提出	授業に取り組む姿勢 問題解決の方法			

教科	選択C	科目	検定とプログラミング	単位数	2	学年・コース	3年 進学・体育/選択者
教科書	いちばんやさしいITパスポートSBクリエイティブ 「Monacaで学ぶはじめてのプログラミング～モバイルアプリ入門編～」アシアル株式会社			担当者	平岡 徹 関野 楓馬		
概要・ねらい	情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。また、情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。国民的素養になりつつある情報活用能力を「ITパスポート」を通して身につけさせる。						
年間授業計画	学期	配当時間	学習内容		評価基準		
	一学期		◆検定「ITパスポート」 2 第1章 企業活動 2 第4章 技術戦略マネジメント 2 第10章 コンピュータシステム 2 第11章 ハードウェア 2 第12章 ソフトウェア 2 第14章 ネットワーク 2 第15章 情報セキュリティ 2 第6章 開発技術 2 第9章 基礎理論とアルゴリズム 2 CBT方式試験		ITパスポート検定を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識を身に付ける。		
	二学期		◆プログラミング「Monaca for Education」 1 第1章 アプリ開発入門 1 第2章 HTML入門 1 第3章 CSS入門 1 第4章 JavaScript入門 2 第5章 条件分岐 2 第6章 関数 3 第7章 イベント 3 第8章 DOM 3 第9章 フォーム 3 第10章 いろいろな演算子 3 第11章 配列 3 第12章 繰り返し		プログラミング言語を学ぶことで、コンピューターやネットワークを活用する知識と技能を身に付ける。様々な事象を、プログラミングを用いてモデル化し、評価・改善することで、生活や社会の中にある問題の発見と解決に取り組む姿勢や論理的な思考力を身に付ける。		
	三学期		3学期は授業を行いません。				
履修上の注意							
ノートはChromebookでとるので、各自タイピングを練習しておくこと。1学期は座学中心となるので、確認テストや提出物で評価をつける。また、2学期のプログラミングでは毎時間の積み重ねで、課題が完成していくので、遅刻や欠席はしないように注意する。							
評価の観点の趣旨と評価方法							
各観点	関心・意欲・態度	思考・判断		技能・表現	知識・理解		
評価の観点の趣旨	・コンピュータや情報機器を使って情報を統合し、表現することに興味を示し、情報を分かりやすく表現することに関心を示していたか。	・伝えたい内容を分かりやすく表現する為の工夫をする。 ・製作物や情報発信の結果を自己評価や相互評価し、改善を考える。		・プログラムのコードを効率的に表現する技術を身に付けられたか。	・ITと社会との関わりを理解している。 ・情報セキュリティとは何かを理解している。		
評価方法	・授業への出席状況 ・授業への取り組む姿勢 ・課題の作成状況	・授業への取り組む姿勢 ・課題の作成状況		・課題の作成状況 ・授業への取り組む姿勢	・確認テスト ・ノート提出		